

令和2年度 摂津市立千里丘小学校 第5回 学校協議会 要点録

日時：令和2年12月21日（月）18時30分～

場所：摂津市立千里丘小学校 会議室

記録：田中健一郎（事務局 教頭）

出席委員 中田 康之、青木 みゆき、寺田 洋子、土田 亜美、坂本 加代子、木下 さひ子、藤浦 清美
欠席委員 佐野 英和、以登田 毅
学校出席者 校長 撰田 裕美、教頭 田中健一郎

1. 校長あいさつ

第5回学校協議会にご参加いただきありがとうございます。

12月に入り、大阪がレッドステージになり、学校の新型コロナウイルスに関する対応方針が変わりました。
今のところ摂津市は一斉授業で感染リスクの高い教育活動は中止しています。
本日もご意見いただきますようよろしくお願いいたします。

2. 報告

- 11月18日（水） 第1回クラブ活動 マスクをしながら活動をしている。児童は久しぶりのクラブを喜んで取り組んでいる。
- 11月20日（金） 国語の説明文の研究授業（全学年）大阪成蹊大学辻村教授が来校。指導・助言を受ける
- 12月 3日（木） 支援教育 第3回「ともに学び、育つ」学校づくり支援事業 箸尾谷教育長が来校。府教育庁、梅花女子大学閑喜教授に指導助言を受ける。
- 12月 4日（金） 三宅柳田小研究発表会に教職員参加
- 12月 9日（水） 教育委員学校訪問 授業視察 現場の先生との対談 コロナ禍の中で学校がどうやってきたのか、「ともに学び、育つ」学校づくり支援事業にポイントをおいて学校より説明
- 12月11日（金） 三中校区不登校ワーキング 中学校進学を見据えての情報交流を行う

3. 協議

学校自己診断アンケートについて

- （校長） 12月に実施した学校自己診断アンケートの結果を受けて作成した分析資料についてご意見を伺いたい。
- （教頭） 実施状況（調査日・回収率と昨年度との比較）について説明。
児童・保護者・教職員の全アンケート項目の回答結果の提示（紙媒体 昨年度と比べてのポイントの変化を表で示す）
- （校長） 結果をもとに分析を作成。学校経営計画に基づいて、「安全で安心できる学校づくり」「確かな学力と体力を育む学校づくり」「信頼される学校づくり」の3つの柱に関わる質問についてまとめた。また、肯定的回答が多いもの、肯定的回答が少ないもの、という観点で取り上げている。
グラフの提示の仕方が見やすいかどうか、取り上げている内容が適しているかについてご意見を伺いたい。

① 「学校へ行くのが楽しいですか」の項目について

(校長) 数字だけ見ると肯定的回答が多い。しかし、細かく見ると昨年度より児童のポイントはマイナス2下がっている。肯定的回答と捉えてよいのか。少しずつ下がっている原因としては、学校生活での自由に話せない、遊べない、などの新型コロナウイルス感染症予防対応による制限が多々あるからなのか。こういったことが影響しているのかが気になるところではある。

〔意見交換〕

(委員) イベントごとが少なくなっている。子どもが楽しいと表現できる機会が少なかったのでは。その分今年度はがんばって取り組んだ運動会のポイントは上がっている。思い浮かべたときに、楽しい思い出としていえるものが少ないことがあるのでは。

(校長) 確かに。遠足なども行っていませんからね。

(委員) 今の世の中はなんでもしたらいけない、やめときましょうという風になっている。

(委員) 窓を開けても寒いのに文句ひとつも言わないで授業を受けている様子を見ると、子どもたちの中にも制約する気持ちがあると思う。そういったことが数字に表れているのでは。子どもたちも我慢している。

(委員) 子どもも親も我慢している。ストレスがたまっている。

(校長) 給食の時間なども一切しゃべらず、ひたすら黙々と食べないといけないなど、本当に制約はたくさんある。

(委員) これしたらあかんと言われますものね。大人もストレスがたまることが多いですし。

(校長) 授業時数は増えて、昼休みに15分授業をしていますし、水曜日にも6時間授業しているので、しんどいし、楽しいことが減っていることになっているかもしれない。これは肯定的回答として載せてもよいですか。

(委員) いいと思います。

② 「いじめなど困ったことが起こった時、相談できる人はいるか」の項目について

(校長) 児童、保護者も概ね85%以上の肯定的な回答なので挙げている。学校で見えている部分は記録をとるなど対応をしているが、放課後や家庭で、またゲーム中などのトラブルをひきずってしまうこともあり、なかなか把握しづらい状況もある。

〔意見交換〕

(委員) 保護者も児童も昨年度よりもポイントが上がっている。評価してもよいのでは。「どちらかと言えばそう思わない」と回答している児童が、相談事がないからそう答えているのか、それとも相談できていないのかということは気になる。

(校長) いじめアンケートを実施して直接言えないことを書かせることもして、児童の困り感を吸い上げている。今年は児生加配教員が配置され徹底的に聞き取りを行ってもらった。

(委員) アンケートは一人以上の人が見ているのですか。

(校長) まずは担任が見て学年で共有し、加配教員にあげていく。必ず複数によるアンケートの確認をしている。

(委員) 一人の先生が見て隠してしまうということにはならないのですね。

(校長) 必ず複数の教員で確認しますね。過去のことでも拾い上げている。しかし、言えていない子もいる

かもしれないということは学校は考えないといけない。

③ 「災害に対する対応」についての項目

(校長) 自分の命は自分で守ることのできる子どもを育てることを目標に防災教育に取り組んでいる。避難訓練という形では学期に一度実施するが、今年はコロナの影響で1学期はできなかった。防災教育としては、非常時の持ち出し袋の内容について考えるなどの学習を行った。

(校長) 今年は密を避けるため、体育館に集まることはしていない。

(委員) 地震でしたらグラウンドですか。台風だったら体育館に集まりますか。

(校長) そうですね。今年は水害の避難訓練はしたが、体育館に集まることは密になるためにしなかった。

④ 「相談体制」についての項目 「教育相談体制が整備されており、児童は学級担任以外の教職員とも相談することができる」

(校長) 肯定的な回答が少なかったものとして挙げている。教職員のみに聞いているが、肯定的な回答が少ない。この相談とはいじめ等に特化していないので、いろんな相談という意味になるか。小学校は担任が一番多く関わることになるが、担任に言えなかったときに相談できる体制があるのかどうかを聞いている。相談となればカウンセラーが学校に一人いるのだが、週に1日来るのみで、予約もいっぱい。新しい相談をしたいとしてもすぐにできない状況がある。

(委員) カウンセラーへの相談では児童・保護者・教職員の割合は？

(校長) 8割は保護者です。教職員は予約をとらずに隙間の時間に行っている。児童は授業があるので相談できる時間は限られてくる。また、子どもは初めての人に困っていることを言うのは難しい。保護者があまり関係ない人に相談するほうがしやすい場合もある。週一日の来校でそう答えているのかが、このアンケートの項目だけではわからない。

(委員) 教職員への質問ですか。

(校長) 教職員への質問なのですが、どちらかと言えばそう思わないと答えている割合が多い。自分が担任している子ども以外から、あまり相談を受けることも少ないのでこう答えているのかとも考えるが。

(委員) これを解決するためにはどのような方策があるのか？

(校長) 教職員にもう少し細かく聞いていく必要があると考える。中学校であれば学年の誰かに相談することはあるが、小学校では3年生の児童が6年生の先生に相談するというような、担任の先生以外に相談していくということはなかなかない。

(委員) 担任に相談できないとすれば、誰に相談するのか？

(校長) 例えば前の担任の先生とかもありますし、保健室の先生とか内容によって色々あると思うが。同性の先生がいい場合は、担任ではなくて、ということもあるでしょうし。

(委員) 来年度からは理由を聞いてみるほうがいいですね。ただ単に相談を受けたことがないだけなのか、それともそういう状況があるのか。児童や保護者より先生の割合が低いのはよいのでは。

(校長) 来年度は質問の仕方を変えていくことを考えます。

確かな学力と体力を育む学校づくり

⑤ 「授業づくり」についての項目

(校長) 授業がわかりやすいか、授業が楽しいかについて肯定的回答が多いが、これに安心するのではなく、本当にそうかということを学校は意識しなければならないと考える。コロナの影響で自分たちで話し合う活動などは制限があるし、3か月の休業分も含めた授業内容を6月から進めないといけない状況もあったことから、けっこうしんどい結果になるのではと考えていた。発表に関する項目は低くなっていたり、班活動など向かい合って座るなどはしていない状況がある。

(委員) 児童の9番の質問で5年生の先生だけが低いのは何か理由があるのか。先生が厳しいのか。分析がしているのでは。

(委員) ほめ方も大切。教師の力量によるものもある。

(委員) 「オッケー」や「よかったよ」では伝わらないことも。今のは何が良かったのか具体的にほめてあげないと、子どもには何が良いのか実感が伝わらない。

(委員) わかりやすいという意味ではiPadなども入り、視覚的に支援するものは入ってきているので、それらの活用でわかりやすくなると思う。今後わかりやすいという観点はどうなっていくか見ていく必要がある。

⑥ 「少人数指導」についての項目

(校長) 少人数指導の加配教員が配置されている。算数の時間には担任も含めて2クラスを3分割して習熟度別授業を行っている。

(委員) クラス分けはどのようにしているのか。

(校長) クラスも教員が勝手に決めるのではなく、児童の希望を聞いてクラスを決める。丁寧に進める方がいいのか、すすいやっていくのがいいのか、など。

(委員) 習熟度別にするメリットは。

(委員) 第二回の参観の時に見たが、考えや説明を求める授業を少人数で行っている。

(委員) やはり子どもたちは、いつもより少ない人数で授業することはわかりやすかったり、できた感が感じられていると思う。

⑦ 「社会性」についての項目

(校長) 今年は廊下を走る児童が多い。コロナのストレスなのか。トイレ工事のために、一つのトイレが混み、子どもたちは真面目なのでチャイムが鳴ると走って帰ることもある。4年生が、自分たちで「廊下は歩きましょう」と呼びかけるポスターを作ったりなどの取り組みをした。

(委員) 子どもたちが考えて行動したり、啓発することはとても大切である。

(委員) 学校の中で社会性を身につけることは意味があり重要である。

信頼される学校づくり

⑧ 「家庭との連携」についての項目

(校長) 夕方になると回線が埋まるくらい、担任から家庭に電話連絡している。聞いていなかったと言われないうように連絡をするということもあるが、どこまできめ細やかに行うかということも一方では考える。

(委員) 娘も言っている。学校からよく電話がかかってくる。仕事行っている時間なので取れないことも多いがかかってくる。

(委員) 一番忙しい時間帯ですね。自分たちはきめ細かいつもりでも、保護者にとったらどうなのか。

- (委員) でも、直接する方がいいんじゃないですか？
- (委員) 仕事していたら電話に出れないことも。電話に出れなかったら、逆に何があったのか気になる。
- (委員) どこまで伝えるのが難しい。喧嘩したとか、ケガしたとかなどはすぐに伝える必要はあるが。
- (委員) 保育園では毎日お母さんと顔を合わすので、そこで伝えられますが。学校は少し違いますからね。
- (委員) 先生自身が臆病になってしまっているのでは。先生をそんな気持ちにさせてしまう保護者のそういう状況が昔と比べて大変なんだろうと思う。言ってくる内容も、こんなことまでという必要があるのかと思うことがある。
- (委員) しょっちゅう電話連絡をすることが、本当にきめ細やかで信頼されることにつながるだろうか。
- (委員) 教職員の「どちらかと言えばそう思わない」の回答が17%あることの方が気になる。これだけ電話していてもまだ足りないと思っているのか。先生はご苦労されているのでは。
- (委員) 家庭へ電話連絡するということだけが本当に信頼されることなのかを考えていく必要がある。
- (委員) けがなんかは伝えないといけないですね。
- (校長) 18時30分に自動音声システムになる。その辺は理解していただけているのか。
- (委員) それは自動音声システムにしておかないとキリがない。
- (委員) 連絡帳に書いて伝えるということが基本ではないのか。
- (校長) 連絡帳は千里丘小学校では朝に書かせている。理由としては、帰るまでにきちんと書けたのかをチェックするため。家庭はどこまでを希望しているのかを知る必要がある。

⑨ 「情報発信」についての項目

- (校長) 昨年度も低い結果。情報発信について今年は二つに分けた。学校だよりなど紙媒体での情報発信については肯定的な回答が増えたが、メールやホームページによる情報発信の方は低くなっている。この学校協議会でご意見を聞いて、学校だよりは見出しをつけたり、字数を減らしたりと工夫した結果も出てきているとは思いますが。ご意見いただきたい。
- (委員) あまり頻繁にメールが送られてくると、慣れてしまい確認しなくなるという危険性がある。
- (委員) 市Pの会議などでもメール配信すればよいという意見に対して、あまりたくさん送るのはやめてほしいという保護者の意見があった。
- (校長) 学校ホームページはトップページが変わらなくて見にくい。更新しているページがトップに来ないので、いつ見ても同じに見えてしまう。変えたいのだがシステム上なかなか変えられない。そういう意味では充実しているとは思えない。
- (委員) ホームページの更新は担当の先生がやるのですか。
- (校長) いるが担当者一人では学校すべてを網羅できない。作業をしてくれる特別な人はいない。発信ということについては、学校全体で考える必要がありますね。

⑩ 「こどもたちの生活習慣」についての項目

- (校長) 昨年の学校協議会で、生活習慣に関するアンケートが年々少しずつ下がってきているということを、家庭に訴えていったほうがよいというご意見があったことから生活習慣のことを入れた。今年は肯定的な回答が上がっている。改善したと取れるが、引き続き今後も発信していく方がよいと考えている。新型コロナの影響で生活習慣が崩れると思っていた。

(委員) コロナの期間、家にいる時間が長いので、保護者も目が行き届いたのかも。在宅勤務の方も多かった
ので関わる時間があったのでは。

(委員) 生活習慣のすべての基になる。今後も発信する方がよい。

(委員) 何かコロナの休業期間に取り組んだことはあるのか。

(校長) コロナで臨時休業の期間に、生活習慣チェック表を持って家庭訪問をした。そのことで効果があった
のかどうかはわからないが、良かった取組みかなと考えている。

歯磨きについても、今年は夏休みの歯磨きカードのイラストを先生たちが描き、子どもに関心を持っ
てもらう工夫をした。そのことが効果があったかもしれない。

(校長) 全体に関わって何かご意見があればお願いします。

(委員) コメントを入れて出す方が、グラフだけよりもよりわかりやすいのでは。

(委員) グラフの中の文字 色の塗り方などを検討してみたらよいのでは。

(委員) 今の PTA の方たちにも意見を聞いてみてもよいかも。

次回、1月22日（金）18時30分～ 第6回学校協議会